

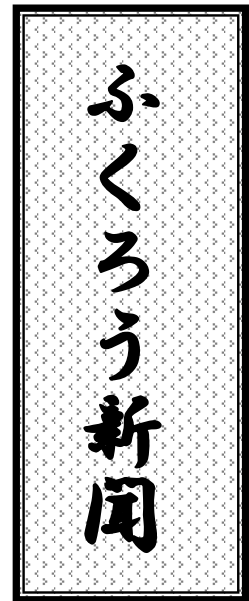
# 第10回 ふくろうふれ愛まつり



来賓の方々には、式典前に文化展の展示を見ていただき、式典ではいつものように、温かい励ましのこもった祝辞をいただきました。今回、「ふくろう募金箱」をいただきました。利用者

## 初心に戻り「ともに生きる」

平成27年10月25日の理念と同じく「一人ひとり(日)、第10回ふくろうりを大切に」とともに生きるふれ愛まつりが秋晴れる。初心に戻って、みんなのもと開催されました。なでがんばつていこうと今回のテーマは法人の思いが込められています。



<発行>  
特別養護老人ホーム 郷会  
淡路ふくろうの郷  
広報委員  
洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

## ふくろう文化展 辛い歴史を繰り返さないために

先日10月30日、洲本市文化体育館において中川原ふれあいセンター運営委員長の堂内克様がチャリティリサイタルを開催されました。「歌で元気になっていただけるよう」との思いで、他の施設には招待券を、聴覚障害者が多いふくろうの郷には寄付金をいただきました。温かいお心遣い、ありがとうございます。

の方の発案で、ふれあいセンターの陶芸クラブの皆さんが講師の宮地 真先生、明子先生のご指導のもと作成した、ふくろうの形をしたかわいい募金箱です。先生方は「ふくろうの形をした募金箱の作成を依頼された



▲宮地先生 募金箱の製作ご指導ありがとうございました

が、陶芸クラブの皆さんで作った方が、募金箱を作成したいとの思いに合うのでは」と、陶芸クラブで作ることを提案されたそうです。複雑な形に悪戦苦闘しながら作られたのだろうと思ふと感謝の気持ちでいっぱいになります。

また8月10日に100歳をお迎えになった土居文子様の百寿のお祝いも行われました。  
第10回という節目に、感謝と慶びに包まれた式典となりました。  
(事務長 橋詰恭子)

ふくろうふれ愛まつりの文化展で書道作品、絵手紙、絵、ちぎり絵の屏風などを展示しました。

自分史紹介コーナーでは、濱田さん、土居さん、辛島さんの人生について展示をしました。

この三名の自分史を近々出版する予定です。また今年

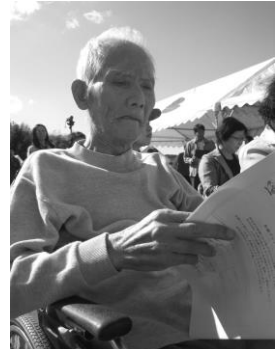


は、NHK Eテレの放送を発端にナチスのユダヤ人虐殺のため実験されたT-4作戦Ⅱ障害者根絶毒ガス殺戮の記録も展示しました。ろう者を含めた障害者20

たので、とてもありがたく思いました。辛い歴史を繰り返さないためにも、少しでも多くの方々に語り継がれるとくみが続けます。  
(生活支援係 和田彩加)

多くの方に来ていただき、皆さん熱心に読まれていました。

# ふくろうふれ愛まつり 入居者の様子



## 入居者発表

今回の入居者発表は『手話歌』と『ふくろう学びあい文庫の紹介』をしました。

ふくろうの郷は来年、設立から10周年を迎えます。担当となった我々職員3人は、今あるふくろうの郷の暮らしは、この10年間の日々の積み重ねであり、その間の出会いや別れの一つ一つが大切なものとなって今日につながっているという思いから、この思いに添う歌詞の内容である『涙そうそう』という曲を選び、手話で表現することにしました。手話歌の手話表現は単に歌詞の文章通りにならず、意味をとらえた手話表現になるよう何度も考えなおしました。出演する入居者さんには、まず、ふくろうの郷での生活、その間にお別れた仲間のことなどをお話しし、涙そうそうの歌詞の内容を伝え、この歌を選んだ理由をお話ししました。その

説明を、頷き、また涙しながら聞いてくれる入居者さんもありました。当日、発表する入居者さんの首にかけた飾りは、地域の小学校へ手話の講師として招かれた職員が、小学生からお礼にもらった手作りのかわいい首飾りを参考にして作りました。ふれあい祭りに来てくださった手話が分からない方にも、手話に興味を持っていただけ

たらと思いい、入居者の自己紹介の手話表現に簡単な説明をつけてみました。これまでの様々なつながりを入居者発表に込めました。また、今回の入居者発表を見て、新たなつながりが広がればと思います。ふくろう学びあい文庫の紹介では、今年、自分史の本を出版した花房さん、DVDが完成した黒崎さんを舞台に迎え、今年も水戸黄門に扮した黒崎さんの昨年夏に介護保険制度の改正に向けて厚生労働省は要望書を提出

に行った話を交えながら、幼いころからの人生について紹介しました。(生活援助係・中西伊達 石川)



## 人生を聴いて

8月8日に入居者自治会長の黒崎時安さんと施設長の大矢が神戸のしあわせの村で黒崎さんの人生を語る講演をしました。その感想の一部を紹介いたします。

・黒崎氏にお久しぶりにお目にかかりました。が、以前と相変わらず、お元氣のようですね。よいります。(中略)彼は生きる意欲をもって、懸命に色々な工夫をしながら人生を駆け抜けて、ここまで来られたのだと思います。なお80歳を過ぎて、一生懸命に手話で苦しかった過去をきちんとお話されて、凄いなあと感じ、脱帽しました。国や社会からいろんな権利を奪われたり、さらに障害者であるということと差別されて、悔しい思いも、私達も経験しました。これからは「共に生きる社会を、当たり前な人生を」と、仲間と一緒に頑張っに行きましょう！  
(神戸ろうあ協会・北支部員)

# 模擬店



第10回ふくろうふれ愛まつりにも、毎年参加して

いただいている方々や、久しぶりの出店となった団体の皆様など、たくさんのお客様が店を連れ、「いらっやいませ〜!」「おいしいですよ、いかがですか?」との声が飛び交っていました。  
〈第5回B級グルメ大会受賞団体〉

★第1位 神戸ろうあ協会 垂水支部 チヂミ焼 74票

・何度受賞してもいつもコメントは同じです。皆さん食べていただきありがとうございます。1位を目指してやっているのではなく、皆さんにたくさん食べてもらいたくて頑張っています。ありがとうございます。

★第2位 手話サークル津名 漁師鍋&海鮮焼 64票

・手話サークル津名がふれ愛まつりに模擬店を出店

し始めて今年で10回目になります。毎年橋詰鮮魚さんにご協力いただき、おいしい海の幸をお届けしています。ご協力いただいている板長の及川さんが今年限りという事で、いい記念になりました。ありがとうございました。

★第3位 ふれあい男の料理講座 鹿肉の串揚げ 53票

・皆さんこんにちは。私たちは中川原の男性ばかりが集まって料理をしています。今年は中川原地域で獲れる鹿肉を使った料理を出しました。賞をいただけました。ありがとうございました。



▲神戸ろうあ協会 垂水支部の皆さん



▲手話サークル津名の皆さん

第1位には橋詰鮮魚

様より淡路島3年とらふぐのふぐ鍋と淡路産玉ねぎのセット、第2位には中川原産の野菜詰め合わせと淡路産玉ねぎ、秦組本店様よりポン酢のセット、第3位には淡路ヤクルト販売株式会社様より頂いたカットブルーメン1箱と淡路産玉ねぎのセットが贈られました。受賞団体の皆様、おめでとうございます。今年もたくさんの方に投票にご参加いただきありがとうございました。(模擬店担当)

# 舞台

三原高等学校和太鼓部の勇ましい太鼓の響きと共に始まった、第10回ふくろうふれ愛まつり。今年も阿波踊り

もそれぞれの団体が創意工夫をされ、まつりに花を添えてくれました。毎年ご参加頂いている厚浜郷土芸能保存会や大野民踊部の皆様には、今年も美しい踊りを披露して頂きました。「最初は不安もありましたが、周りの声や可愛いいダンスを見せてくれました。また、神戸ろうあ太鼓集団「鼓神」の皆様は、「聞こえなくてもやればできる。あきらめない。」を合言葉に、この日も迫力のある太鼓の響きを披露してくれました。

中川原保育所と中川原小学校のお友達は、手話を取り入れての歌や可愛いダンスを見せられました。また、神戸ろうあ太鼓集団「鼓神」の皆様は、「聞こえなくてもやればできる。あきらめない。」を合言葉に、この日も迫力のある太鼓の響きを披露してくれました。

今年、舞台発表に出場して頂いた団体の皆様、本当に有り難うございました。又、来年も沢山の舞台出演やボランティアの皆様を心よりお待ちしております。

今年、舞台発表に出場して頂いた団体の皆様、本当に有り難うございました。又、来年も沢山の舞台出演やボランティアの皆様を心よりお待ちしております。

◀手話で夢を話してください

## 洲本第一小の皆さんが遊びに来てくれました!

10月6日、洲本第一小学校の皆さんがふくろうの郷に遊びに来てくれました。生徒の皆さんが特技を披露してくれたり、一緒にクッキーを作って交流を楽しみました。



▲生地を伸ばして型で抜いて、クッキー作り

(舞台担当: 鈴川)



▲中央にいろり。くつろぎ空間がある喫茶スペース

今回の社会見学は丹波「おぼあちやんの里」と但馬「但馬蔵(たじまのくら)」という道の駅を見学しました。地元の新鮮で旬な野菜やお米などが並んでいて、私たち以外にもたくさん観光客の人達もお目当てに購入していました。

丹波といえば黒豆。特産品をパンやコロッケ、クッキーに加工作販売されていました。

最後に立寄ったお店では茅葺屋根のたたずまいに枯葉が舞っている様子が印象的で、参加者の皆さんも「昔なつかしい雰囲気の良いなあ。」と話され、四季折々の移り変わりを感ぜられたり、ほっこりくつろげる空間の演出もいいのではないかと思います。

今回は、経営している方から話が聞けなかったのですが、どんなことに苦労されているのか、



▲旬の地域特産の材料を使った昼食に舌鼓のおのころの家の仲間

どういう手法で成功されているか等、今後は具体的に話をきいたり、見学にいったりと自分たちの地域性を活かして自分たちの力でできることは何かを、みんなで智慧を出し合って、作り上げていきたいと感じる社会見学となりました。



ろう者の人生を紙芝居で語る。

県立淡路三原高校 生徒・PTAの方が参加

10月22日県立淡路三原高校で人権教育講演会が開かれ、淡路ふくろうの郷施設長の矢野氏が招かれ、講演しました。紙芝居の後、生徒から「今の社会が変わってきましたか」と質問があり、「現に淡路三原高校の皆さんが今を変えておられます。学び合う機会を作ってくださいました。さらに学び合い今を変えていきましょう」と大矢氏が呼びかけました。またその他にも「すべての職業で障がい者を受け入れる体制を整えるのが大切だ」と思いました。「同じように働くのに、障がい者への待遇の違いがあることを知りました。この違いを無くすべきだと思えます。」などこれからの社会を担う高校生達の心強い感想が寄せられました。

道の駅めぐり  
秋の丹波く但馬く生野  
地元の特産を活かした加工食品がずい

淡路聴覚障害者  
センター便り  
洲本市港2-26  
洲本市健康福祉館3階



▲どこか懐かしい感じのする巻き寿司といなるのセット



▲かわいいイラスト付ポップで目をひくおはぎ

思わず手に取りたくなるポップや包装として雰囲気作り

おしゃれに包装されているのを見て、商品開発はもとより、手に取りたくなる商品や、ディスプレイ・ポップの重要性を感じました。



ろう者の生の声を事業の出発点に  
次は条例推進協議の開催  
淡路市手話言語条例いよいよ市議会へ

10月6日、第3回目の検討委員会を終了し、いよいよ12月市議会にかけられることになりました。

今回の委員会では寄せられたパブリックコメントについての説明がありました。「市役所や銀行など生活に深く関わるところには手話通訳者を設置してほしい」「身近に集まるところが欲しい」「聴覚障害者の声を市民に知ってもらうことが大事」「学校などで継続的な手話学習を」など70数件のコメントが寄せられたと報告がありました。

「まず条例をつくらなければならない。制定後、事業を推進していく上で協議する場の設置が必須義務と規定されておき、今後も関係者が集まり、いい内容となるようにしていきたい」と、委員長の結びの言葉がありました。「制定された」と喜ぶだけではなく、今後も聴覚障害者の暮らしを条例に反映していくための声を伝えていくことが大事であると考えています。

(手話言語条例作業委員会)

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

目が輝く

おのこの家

「あの玉ねぎの苗、よく伸びてるな」  
「あそこは管理機で耕している」  
「あれ見て、玉ねぎの種まき機かな」  
「あれ、何の機械や」  
「トラクターできれいなうね作ってるな」



黒豆・小豆を栽培している畑(南あわじ市賀集)

玉ねぎの苗床手入れ

畑に向かう送迎車の中でなかま6人の会話がはずみます。シタスの収穫作業をしている様子を目で追っているなかま。農作業班のなかまは変わってききました。自分たちと同じ作業をしている農家の人をじっと見る。なかまはまだ始めたばかりの農作業に関心を持ち、目で勉強中です。

一面の野菜畑は良い手本でいっぱい。これまで何気なく、ぼんやり見ていた畑の景色が身近な環境になり、焦点を合わせて見れるようになってきたことは一番の変化ではないでしょうか。(支援員・藤崎)

洲本レトロなまち

歩きに参加して

(おのこの屋)

10月17日(土)・18日(日)の2日間、洲本市街地周辺に於いて、第8回城下町洲本レトロなまち歩きが開催されました。今回は今までで一番多い、飲食店・雑貨店等併せて約100店舗の出店がありました。おのこの屋も2日間参加しましたが、1日目は天気が心配されましたが、そんな心配をよそに2日間とも天候に恵まれました。

前日までにクッキーを準備し、当日は朝早くからパンを焼きました。焼き上がるとすぐに、店舗から販売ブースまで利用者の皆さんも一緒に何往復もして運びました。持って行くと途端にお客様が集まりあつとと言う間に売れてしまいました。両日共、イベントの終了時間前に完売する事が出来ました。

お客様のの中には常連の方も何人かいらっしゃいました。又、お店の場所を尋ねられるお客様もいらっしゃいました。イベントに参加してお店の集客にも繋がれば良いと思います。

10月度就労支援事業収入額： 1,027,984 円

- ・洲本レトロなまち歩き (菓子パン製造移動販売 売上 117,180円)
- ・第10回ふくろうふれあいまつり (菓子パン製造移動販売 売上 35,400円) (イカ焼き-焼き鳥-ピザ等売上 132,550円)
- ・おのこの屋としてイベント出店等参加 (菓子パン製造移動販売 売上 553,734円)
- ・おのこの家屋内外作業・地域支援作業 (箱折-清掃-野菜-手作り品売上 188,220円)

場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平塚												
イオン	3,900	1,800	800	2,600	500	4,000	1200					
アミ	18,320	10,240	14,000	16,840								
ふくろう	5,010	6,638	2,357	16,400	11,000	11,900						
おのこの屋	9,100	4,000	4,800	4,800	4,800	4,500						
ふくろう	11,610			4,800								
イベント	7,800	2,100	13,000		3,500	7,000						
合計	55,373	34,578	24,957	34,824	23,800	29,300						

おのこの家のパザー売りの上げ状況表

新人研修を実施して

(デイサービスセンター桜丘)

デイサービスセンター桜丘では、9月14日、1ヶ月間新人研修を実施しました。日々の業務の中で、それぞれが目標をたて(①利用者さんに対して ②職員間で ③中川原ふれあいセンターにある事業所として)、それを実施してみようだったか(現場で生かしていきたい、日々の業務に取り入れていきたいこと)を話し合いました。「目標を書くことで自分自身がどんな仕事かしたいのか、しているのかという振り返りができた」という意見ができました。また、朝の引継ぎや終礼に職員が揃わないことで、連絡や確認漏れが出るため、わずかな時間でも確保し、1日を始めることにしようとした。新たなルールづくりも始まり、自分なりの忙しさの中で、自分をふりかえることも流れて終わってしまいがちですが、平成27年度の終わりに、一年を振り返ってのデイサービスの研修会を行いたいと考えています。

(竹内)

# 続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.16

北岡肇

## ③ 千手千眼

### 観音さんをまつる

#### 先山千光寺

淡路ふくろうの郷の玄関から西の山を眺めますと、一番高い山が目につきます。海拔448mの淡路富士といわれる先山です。

山頂には、七堂伽藍が建立されています。千光寺にまつわる「縁起の由来」について光山山主、岡本宜照殿下から頂いた記述から紹介いたします。

わが千光寺の由来に因んで

我が国の歴史物語(古事記・日本書紀)にみられますように、国生みのくだりの最初の島は淡路島とされています。千光寺の略縁起によれば、

当山は天地開闢のはじめ、いざなぎ・いざなみの二柱大神、大八洲(日本国)を創りたまひし時、第一に成り出でし山なるを

もつて先山と号し、日本最初峰と称す。延喜元年(九〇一)播磨の国上野(宍粟郡波賀町)の深山に為蔵王(いざさおう)と称する笹を負いたる大猪あり。藤原豊広(藤原鎌足の末孫)通称忠太なる者、ある日山中に入り、かの猪を射たりしが、猪矢を負いながら、机の海、鹿の瀬を渡りて遂に当山に登る。忠太これを追いかたりしに、山の嶺なる大杉の洞の中に、千手千眼観音菩薩光明赫赫として現出したまい、かの矢はその御胸に立ちいたりしかば、忠太おおいに懺悔発心して名を寂忍と改め、ときの帝醍醐天皇に奏聞し、七堂伽藍を建立し、ご本尊を安置し奉りぬ。爾来、わが国内の道俗は、みな当山ご本尊の大悲願力を信仰し奉り、親しく靈験に接し、まのあたり利益をこうむれる輩あげて数うべからず、云々。



## 私たちと一緒に 働きませんか？

『自分の何倍もの深さ・長さの入居者の人生経験から多くを学べます(事務員 川満和則)』

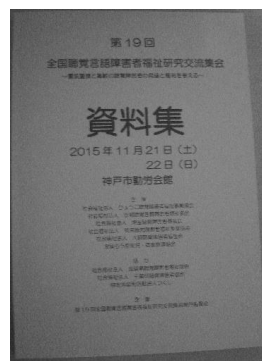
## 淡路ふくろうの郷で 一緒に暮らませんか

聴覚障害をもった高齢者がいきいきと生活されている老人ホームです。

「お詫びと訂正」  
ふくろう新聞110号  
(2015年10月15日発行)  
2面の写真の説明で「100歳になられた土居さんに国から器が、県から銀杯が送られました」とあるのは誤りでした。正しくは「国から銀杯が、県から壺が送られました」です。お詫びして訂正します。

## いつもご支援ありがとうございます

第10回ふくろうふれ愛まつりは、衆議院議員 西村康稔様、兵庫県議員 永田秀一様、兵庫県議員 員 浜田知昭様、洲本副市長 森屋康弘様、洲本市議会副議長 柳川真一様、中川原町連合町内会会長 赤松正市様、その他中川原地域の民生委員、町内会長の皆様を来賓に、千人を超えました。ありがとうございます。



第19回全国聴覚言語障害者福祉研究交流会(11月21、22日)の開催が間近に迫っており、当日のレポート発表や会場設営などの準備も大詰めです。当日の様子やレポート内容については、次号でお伝えする予定です。どうぞお楽しみに。